

午後 試験

全問に共通して、IT ストラテジストとしての経験と考えに基づいて、設問の趣旨に沿って論述することが重要である。設問の趣旨から外れた論述や具体性に乏しい論述は、評価が低くなってしまうので、是非、留意してもらいたい。

問 1（事業環境の変化を考慮した個別システム化構想の策定について）は、事業環境をどのように把握し、認識してシステム化構想を策定したかを問う問題である。おおむね出題趣旨に沿って論述しているものが多かったが、事業環境の現状把握にとどまり将来動向の論述に至らないものや、対象システムの現状の課題とその解決策についての論述に終始しているものも散見された。

問 2（情報システムの追加開発における業務の見直しについて）では、業務の見直しの内容の論述に終始して、業務の見直しの観点が論述されていないものや、システムの機能改善や処理改善の論述に終始したものが少なくなかった。また、新業務の定着を図る場面での利用者や利用部門の理解・協力を得るための工夫ではなく、要件定義段階や導入教育などでの工夫を論述したものも見られた。さらに、“論述の対象とする構想、計画又はシステムなどの概要”に記載した事項と実際に論述している内容に違いがあるものも散見された。

問 3（既存製品の性能向上、機能追加を目的とした組込みシステムの製品企画について）は、組込みシステムの製品を対象とする問題であり、2 回目となる今回は前回に比べて選択者が増加した。論述された内容の多くは、対象とした組込みシステムの製品が具体的で、実務経験をうかがわせるものであった。しかし、製品企画の立案に際して検討した内容については、一般論に終始し、その分析が浅く、論述が不十分なものが見られた。また、一部に、既存製品の性能向上、機能追加をテーマにしていないものや設問の趣旨と異なる内容の論述も散見された。